



コート	担当	クラブ
3月	4月分のコート	思多C
4月	5月分のコート	本町C
5月	6月分のコート	美住B

発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市萩山町 5-6-26-301  
 Tel. 0423-95-9849  
 編集責任者 川村英明

水変更しました

## 第12回 定期総会報告

3月6日東村山テニス協議会第12回定期総会が、市民スポーツセンター大会議室において開催されました。あいにく(?)のテニス日和にもかかわらず、約40余名の参加のもと、佐藤多喜男氏を議長に選出し、予定1時間もオーバーし、熱心な討議が繰り広げられました。可決された主要な結果は次の通りです。

### 昭和58年度 市民テニス 新役員一覧

名誉会長	太田芳郎
相談役	阿辺川貞夫・浦川親俊
会長	柳利夫
技術部	(部長) 武谷直也・(副部長) 長井庸二
広報部	(部長) 川村英明・(副部長) 佐藤多喜男
財政部	(部長) 早川洋一・(副部長) 栗原千枝子
会計監査	横山久磨尾・工藤昭洋志
事務局	佐井孝之・松井貞二

## 3/19(土)～4/3(日) 練習コート変更!

月日(曜)	時間	コート	月日(曜)	時間	コート
3月19日(土)	7～12	2	3月27日(日)	12～17	5
	12～17	3	4月2日(土)	7～12	2
3月20日(日)	7～12	5		12～17	3
3月21日(月)	7～12	5	4月3日(日)	12～17	5
3月26日(土)	7～12	2	協平 運動公園コート		
	12～17	3			

来週3月15日から4月5日までの20日間の予定で、久米川コートが壊れかえし整備されることとが決定しました。この期間中は市民テニスと軟式庭球との調整により、運動公園コートの使い分けを行うこととなります。

変則的にこの間のコート使用場所、時間が上記表の通りとなりますので間違いの無い様に注意して下さい。(事務局より)

### 東村山市民テニスクラブ協議会 55年度 収支予算・決算表, 58年度 収支予算表

	昭和57年度			昭和58年度		
	予算額	決算額	摘要	予算額	摘要	
<b>収入の部</b>				<b>収入の部</b>		
前期より繰越	936,329	936,329		前期より繰越	734,629	
会費	3,100,000	3,032,600	{ 預金利息 70,940 前本利繰上 161,000	会費	3,276,000	
雑収入	100,000	376,165		雑収入	150,000	
計	4,136,329	4,345,094		計	4,160,629	
<b>支出の部</b>				<b>支出の部</b>		
コート代	1,200,000	897,230		コート代	1,012,000	
ボール代	480,000	377,650		ボール代	450,000	
団体加盟費	60,000	66,000		器具購入代	400,000	
会議費	150,000	130,565	各クラブ 20,000 X 5	団体加盟費	60,000	
保険料	250,000	239,660	{ 席前破室 134,000 本井政室 96,000 森政室 27,000	会議費	50,000	
技術向上費	300,000	342,093		保険料	250,000	
親睦費	250,000	248,057	{ 柏崎連行費 150,000 夏の合宿 50,000 会員名簿 90,000	技術向上費	300,000	
事務局費	196,329	150,910		親睦費	120,000	
広報費	200,000	158,300		事務局費	188,629	
予備費	50,000	0		広報費	480,000	
10周年記念事業費	1,000,000	1,000,000		各クラブ運営費	250,000	
計	4,136,329	3,610,465		15周年記念事業費	150,000	
次期へ繰越		734,629		赤外費	50,000	
				予備費	400,000	
				計	4,160,629	

\* 昭和57年度決算報告にたいしては 横山久磨尾 会計監査から書面で承認するとの報告がなされた。

(定期総会 報告 続き)

I 昭和57年度活動報告

技術部 (武谷)

技術部の活動についてよかった点, 反省しなければならぬ点を列挙して活動報告とする。

(1.1) 定期練習について

良かった点

1. 定期練習時間をクラス別・時間別にしたことによって技術部員の練習が充実した。その結果他のクラスでの指導が集中して行なうことができた。
2. 3クラス(初心者, 初級者, 中級者)共, 基本ストローク(グランドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュ)の練習ができた。
3. 初心者クラスは6ヵ月単位のスクール形式が定着し, 指導の内容もほぼ定まった。その結果1年後には大半の方が初級クラスで十分やっつけられるまでにあった。
4. ジュニアの参加は平均80%位で大変出席率が良かった。

反省すべき点

1. 練習の時間が出席者の割に少ないのでレベルの向上にやや伸びが鈍い。初級中級者クラスの練習に工夫が必要である。
2. 練習時間帯が11時で分かれようため連絡事項を11時にやることになった。そのため練習を一時中断してせざるを得ず中級者の時間が少なくなってしまった。
3. 初級中級者クラスの指導はレベルに一定の差があるため集団指導がむづかしい点がある。こゝへの対応が十分でなかった。
4. 指導者がややもすると「ボール出し役」に終始せざるを得なかったため十分な本来的な指導が不十分であった。
5. ジュニアは, ジュニアの時間のみの練習に終わってしまったため, 技術の向上が必ずしも満足いくものではなかった。また生活指導面も系統的でなかった。(フザケ合, たり, ボールを拾わなかったり, 危険なことについては注意を与えた)

(1.2) 外部指導者による講習

良かった点

1. 房前教室, 本井教室共大変好評のためになった。参加者は房前教室26人, 本井教室24人であった。
2. 硬座連の指導者講習会にも(森教室)市民テニから多くの(19人)人が参加し, 一定の技術を修得することができた。

反省すべき点

1. 忙しい講師の都合もあり, 2, 3の催しの全員へのお知らせができていなかった。そのためコートに要項を張り出さざるを得なかったため, 参加者がやや固定してきた。

(1.3) 試合への参加について

春秋の市民大会への参加は春で全参加者の31% (延べ104人), 秋で36% (延べ142人)と多くの人に参加した。その他東京都市町村対抗庭球大会(太田杯争奪)にも64%(14人), 柏崎戦にも90%(26人)の人が参加しました。ただ戦績の方が今一つの感でした。

(1.4) 技術部研修

反省すべき点

5年は1回も持つことができなく, 技術部員だけできなく, 各クラスの方にも指導の統一性という点を課題をかけた。

(1.5) 技術部会

5回と緊急に2回開きました。定例化できなかった。

(1.6) 書籍の利用

現在「インサイドテニス」という, やや中級・指導者向けの本を貸出したが, PR不足もあり, 利用者は6人にとどまった。

(1.7) 10周年記念部内団体戦

10周年の事業の一つとして, ハンディキャップ制を入れたクラブ対抗戦を行った。延べ240人(2日間の)の会員が参加し, 親睦を深める点でも大変好評であった。

広報部 (川村)

- ① 月ごとの発行は, 大体達成できた。但し, 月初めにならず, 遅れたこともあり不安定さを残している。
- ② 「ガット」作成分組一クラブ持ちまわり一はできた。56年度6名に対し, 57年度10名(各クラブ2名)のシステムはほぼ確立した。
- ③ 内容 会の活動に役立つ内容には必ずしもなっていない不充分さを多く残している。
- ④ 印刷の負担を相変らず儀間さんに頼りました。

(定期総会 58年度活動方針の要旨は4月号に掲載はす)

◎ 春季市民庭球大会のお知らせ

今春も下記の日程で予定されています。

- 4月10日(日) 男子ダブルス
- 4月17日(日) 女子ダブルス・壮年ダブルス
- 4月24日(日) 混合ダブルス



総会席上, 会員のマナーについて意見が出されました。「試合中, コートの後を渡ることは絶対にやめましょう」テニスはマナーのスポーツ!